

## 令和2年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立浜松聾学校 P T A
学 校 名	静岡県立浜松聴覚特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	43人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	ハンディタイマー（スタンド付）
使用学年及び人数	小学部全学年(19人)、中学部全学年(17人)
使用頻度	小学部:朝マラソン(8:15~30)、業間体育(月~金)、体育(月~木)、行事 中学部:体育(月・水・金)、部活動(月・火・木・金)、行事
使用状況	<p>&lt; 体育授業時の使用 &gt;</p> <p>①サーキット運動、インターバルトレーニング          プログラムタイマーをセットし、活動・休憩を繰り返した。          (例)縄跳びサーキット 20秒ごとに、活動と休憩を繰り返した。</p> <p>②マラソン記録会に向けて          タイマー機能を活用し、自己の記録更新に向けてマラソンに取り組んだ。          タイマー機能を利用して、1周当たりの時間を意識して取り組むことができた。</p> <p>&lt; 部活動時の使用 &gt;</p> <p>①ウォーミングアップ          プログラムタイマーを活用しての体幹トレーニング、シャトルラン</p> <p>②練習          プログラムタイマーを活用しての練習(サーブ練習、基本練習、対人練習等)</p>
物品の使用による変化や効果	<p>A.サーキット運動(縄跳び)では、時間を視覚的に示すことで、跳び続けようと努力する姿が見られた。跳べた時間が見て分かるので、高い意識を持って 縄跳びに取り組むことができた。</p> <p>B. マラソン練習ではタイマーを確認しながら走ることで、自分でペース配分を考えながら走る事ができた。また、ペース配分を考えることが難しい児童も、時間いっぱい走ろうと取り組む姿も見られた。</p> <p>C.ボール運動では得点を視覚的に表示することで、勝敗への動機づけに繋がっている。どうしたら勝つことができるかチームの中で作戦を立てたり、工夫した練習設定をしたり、意欲的な活動に繋がっている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>・ハンディタイマーは教員がセットしており、児童・生徒が自身で操作することはない。主体的で、目的を持った練習のために児童・生徒が操作を覚えて、自ら使うことができるような活用方法を考えていきたい。</p>
その他希望や所感など	

## 2. 活用の様子

マラソン練習の様子(小学部)



ボール運動の様子(小学部)

